



田辺栄次郎 リヨンの丘 -田辺栄次郎展-



刀 家次 室町16世紀 -蘇る赤羽刀-

■ 前田家の婚礼調度

前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 蘇る赤羽刀

第2展示室

■ 田辺栄次郎展 -南仏の光-

第3展示室

2月前半の展覧会

■ 村田省蔵展 -画業60年の歩み-

企画展示室

■ 新春を寿ぐ -天神画像を中心に-

前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 雅の造形 -茶道と能楽-

第2展示室

■ -清廉の女性美- 竹沢基展

第3展示室

■ 明治の工芸

第5展示室

蘇る赤羽刀

2月15日(金)～3月23日(土) 会期中無休

昭和二十年（一九四五）太平洋戦争の終結により、連合国占領軍（GHQ）は日本の武装解除の一環として国内の刀剣類を接収しました。そのうちの多くは海洋投棄されたり海外に流出したと言われていますが、接収された一部が赤羽（現東京都北区）にあったアメリカ第八軍兵器補給廠（ほきゅうしょう）に集められました。二年後の昭和二十二年、当時の刀剣関係者の尽力により、このなかから美術的価値のある刀剣については返還されることになり、上野の国立博物館（現東京国立博物館）に移されました。その数は、約五五〇〇本余と言われています。

そしてこれらの刀剣類が、接収時の保管場所になみ「赤羽刀」と呼ばれています。その後、所有者が判明した一部については返還されましたが、多くは長く東京国立博物館の収蔵庫に保管されたままでした。しかし終戦五十年の節目にあたる平成七年（一九九五）、議員立法により「接収刀剣類の処理に関する法律」が成立し、赤羽刀の保管・活用に大きな道が開かれました。文化庁ではこの法を受けて旧所有者が判明したものについては返還し、残りは一旦国庫に帰した後、全国の、これら刀剣類のゆかりの地にある公立の美術館・博物館等へ無償譲与し、活用・公開されることになりました。

石川県立美術館は加州刀を中心に七〇口の譲与を受け、平成十一年度から順次研磨に着手しました。本展では、加州古刀・加州新刀、さらに赤羽刀の歴史的経緯を伝える未研磨の刀剣をあわせて展示します。



銘 加州藤原住家次（表紙掲載の刀の部分）

前田家の婚礼調度

2月15日(金)～3月23日(土) 会期中無休

婚礼調度とは婚礼の際に女性が嫁ぎ先へ持参するもので、大名家では統一された意匠と家紋が施された豪華な蒔絵装飾の婚礼道具が準備されました。徳川美術館の「初音の調度」に代表されるように、その内容品は、三棚、化粧道具、香道具、文房具、遊戯具、飲食具、その他の調度品などその数量は膨大なものでした。

前田家では徳川將軍家からの輿入れが多々ありましたが、それは將軍家にとって、外様大名で大藩の前田家を配下に与するために姻戚関係を結ぶことが、必要不可欠の方策であったことが要因でした。三代藩主利常へ二代將軍秀忠の二女珠姫（天徳院）が、四代光高に家康の孫で水戸の徳川頼房の二女阿智子が、五代綱紀に保科正之の二

女で二代將軍秀忠の孫磨須子が、六代吉徳に五代將軍綱吉の養女松子が、十三代齊泰に十一代將軍家斉の二十一女偕子（溶姫）がそれぞれ輿入れしています。前田育徳会には溶姫の婚礼調度がまわって所蔵されています。松唐草を圖案化した意匠と徳川家の葵の紋が蒔絵されています。三棚の一つである書棚と貝桶は失われていますが、当時の大名の婚礼調度として貴重です。

今回の展示では、厨子棚・黒棚・十二手箱・大小角赤手箱・齒黒箱・櫛箱などを展示し、大名家の晴れやかな婚礼調度の一端をご覧頂きます。なお、現在の東京大学の赤門は、文政十年（一八二七）十一月に溶姫を迎えるに際し、御守殿門として建てられました。

葵紋蒔絵調度品 溶姫所用

今月のみどころ

第4～6展示室

2月15日(金)～3月22日(金) 会期中無休

田辺栄次郎展

—南仏の光—

2月15日(金)～3月22日(金) 会期中無休

第4展示室 彫刻

今回の展示は、前回の展示に引き続いて本館コレクションの優品を展示するもので、人体彫刻を中心にした前回分に加え、抽象作品を交えての展示です。地元石川県に関する作家を中心に、存在感を示す充実した量塊の作品や空間を意識した作品。また量塊と素材が融合した魅力溢れる作品など、多彩な彫刻作品をご覧ください。



人とトラロック 高橋梁

第5展示室 工芸

第5展示室では春に向けて華やかに、友禅作家の水野博氏の小特集を行います。春から夏にかけての草花を主なテーマとした氏の作品は、確かな技術と芸術的感性に裏付けられており、亡くなって三十年以上を経た今でも、新鮮な魅力にあふれています。没後にご遺族からの寄附を受けた珠玉の作品群から、着物と屏風を併せて五点展示します。



友禅訪問着「芽」 水野博

第6展示室 日本画・書

第6展示室は通常、季節や企画展に併せたテーマを選び、日本画を中心に展示しています。この季節は「春を待つ日本の心」をテーマに作品を選んでいきます。

特に今回は、二年ぶりに黒田櫻の園作「御水送り神事」の連作を展示します。この作品は「若狭のお水送り」としてよく知られる福井県小浜市にある神宮寺の神事が主題です。本展示室をご覧ください。雪下の命の芽吹きを感じて頂ければ幸いです。



御水送り神事 黒田櫻の園

本展は田辺栄次郎氏の没後十五年に際し、館所蔵の十二点の作品を一堂に会するものです。田辺氏は明治四十三年羽咋郡押水町（現宝達志水町）生まれ。昭和四年に石川師範学校を卒業し、三十七年まで金沢市内の小中学校に勤務しました。この間、十二年に第二十四回二科展に初入選して以後出品を続け、二科会解散後は戦後二十二年に宮本三郎が結成した二紀会の第一回展に招待出品、その後三十二年に第三回一陽展に出品し、以後一陽会の重鎮として活躍しました。三十年代は絵具を盛り上げ、モノクロームに近い抽象の作品を手がけましたが、四十二年以降は地中海や南仏などに取材した風景画を描くように

なりました。海外でのスケッチをもとに、帰国後アトリエで再構成して本制作へと進み、そこでは個々の具体性は昇華され抽象化されたオレンジの屋根と白い壁、そして木々の緑といった、ごく限られた要素で画面は構成されていくのです。従って、名所旧跡が描かれるということはありません。田舎の生活の匂いのするところを求めて田辺氏は描きます。そして、画面に人物を見ることがなく、結果、鑑賞者は自分を画中の人物として描き加え、絵を通じてその地へ旅行したかのような思いをいだくのです。風景画の魅力の大なるものが田辺氏の作品からうかがえることでしょう。



ピオットの屋並裏

2月前半の当館主催展

1月4日(金)～2月11日(月・祝) 会期中無休

前田育徳会尊經閣文庫分館

新春を寿ぐ―天神画像を中心に―

前号で天神画像と茶道具を紹介しましたので、今号では文房具を取り上げます。文房具は机上にある書画のための道具ですが、書を尊び、文人を理想のスタイルの一つとした中国では特に発達し、多彩で多様な文房具が作りだされました。実用性ととも書齋の愛玩品としても鑑賞に堪えるもので、それらは希少な素材に工人が精妙を尽くして作られたものが少なくありません。

こうした文房具の収集は、唐物への尊崇が熱心だった江戸時代の風潮に添って、文人のたしなみとして進められました。前田家では歴代藩主が文房具に心を寄せた関係上、数多くの品々が伝わっています。



銅蟹文鎮

当地は江戸時代より育まれた文化土壌が豊かな地域です。また、明治維新による幕藩体制の崩壊により江戸や京都、大阪などの大都市では、大名家や武家、さらには旧家から、多くの美術骨董品が売却のため市中に出回りました。金沢ではそうした混乱の影響が少なく、中央の美術商たちはこぞって当地の名家へと美術骨董品を持ち込み、山川家などの素封家に名品が収集されました。山川家の収集品は山川コレクションとして、当館の主要な所蔵品となっています。こうした作品を中心とした展示を開催中で、金沢の文化をお楽しみください。



重文 色絵梅花図平水指 野々村仁清作

雅の造形―茶道と能楽―

第2展示室

1F 企画展示室

村田省蔵展―画業60年の歩み―

本展では村田省蔵氏の六十四年の画業を、テーマや作風の変遷をもとに四期に分けて構成しています。まず、第一期は昭和二十三年～四十一年までの十八年間。金沢美術工芸専門学校で油絵を学び、上京して小絲門下となり風景画をメインのテーマと定めます。水門や河、渡船場など、景色と構造物とを組み合わせた構図が多く見られ、黄褐色の渋い色調が特徴です。第二期は、昭和四十二年～五十八年までの十六年間。制作に行き詰まり、メキシコでの制作を経て復調、日展会員となり、鎌倉市七里ヶ浜にアトリエを築きました。町と家並みが多く描かれ、多彩かつ重厚な色彩と緊密な構図は村田様式の確立期といえます。

第三期は昭和六十年～平成四年までの七年間。北海

道シリーズが始まり、鎌倉市浄明寺にアトリエを移し、日展評議員となる時期です。町並みから一転し、山や北海道の風景など広大な自然が描かれています。第四期は本展の核をなす稲架木シリーズ。平成五年以降で、今回展示している風景作品の約半分がこの四期で占められています。空の色が多彩で、様々な形をした稲架木が画面を造形すると共に、脈々と続く人々の営みを日本の原風景として描き残したいという思いが伝わってきます。冬に凜として立つ稲架木は村田氏の分身といえるのかもしれない。

ぜひ、会場で村田氏の画業の変遷と深化をご堪能ください。



河 1961年

2月の企画展示室

第7～9展示室

第19回 北陸国展

2月16日(土)～20日(水) 会期中無休
閉室は午後5時

北陸国展は北陸在住及び、ゆかりのある国展出品者等で構成され、今回は、絵画部三十一名、写真部二十八名が力作、大作を発表します。またフリースペース展示では北本真隆(絵画部)、飛山哲増(写真部)が作品をまとめて発表するとともに、一日遅れて広坂別館にて写真部受賞者会員準会員秋季展(東京)の巡回展示も行ないますので合わせてご高覧くださいますようお願い申し上げます。

- ◆入場無料
- ◆後援 北國新聞社 テレビ金沢
- ◆連絡先 津幡町七野一〇七一

本田正史(北陸国展事務局)
TEL 〇七六―二八八―一八一九

2月前半の当館主催展

1月4日(金)～2月11日(月・祝) 会期中無休

第3展示室

―清廉の女性美―竹沢基展

展覧会出品作を中心に、二十六点の竹沢作品がずらりと一部屋に並ぶのは壮観です。男性像とフランスの寺院を描く二点の作品以外はすべて女性の座像で、営々と描き続けた作者の女性像の変遷がうかがえます。前回の日よりでは「いずれも細部を切り捨てた力強い線と、色数を限定した明快な色調で描かれています」と述べましたが、あらためて作品を見ていきますと、昭和五十八年以降、つまり竹沢氏が目を病んで後の「若い婦人」や「白い椿」、「白いカーディガン」では、女性の表情や姿に柔らかなものを感じ、色彩的にもカラフルで画面は華やいています。晩年の作品をもっと見たいと思われれるのではないのでしょうか。



白い椿 1984年

平成二十五年を迎え、巳年にちなんで第5展示室には、現在《鉄自在蛇置物》を展示しています。当館が所蔵するこの作品は、名称のとおり鉄で作られた蛇の置物です。まるで生きていけるような、リアルな表現となっています。長さが約一米ートルほどですが、頭部から尻尾の先までおよそ二〇〇ほどの鱗を形取ったパーツが組み合わされています。「自在置物」とは、鉄や銅、銀などを素材にして、蛇や鳥、魚、昆虫、また龍などを写実的に作り、しかも生きものと同じように動かせるようにした置物のことで、江戸時代から昭和初期にかけて制作されました。明治時代には海外に輸出されて、今日も欧米に多く残っているようです。このような本物と見紛うばかりの写実性を追求した超絶技巧を駆使した制作物は、単なる置物の範疇に止まらず、工芸作品として近年あらためて見直されています。



鉄自在蛇置物

明治の工芸

第5展示室

今年も、美術文化学部(三学科)、美術工芸学科(日本画・洋画・陶芸・漆芸)、情報デザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、そして文化財学科卒業研究の成果を発表いたします。小さな学部ですが、卒業作品数は多くはありませんが、一人ひとりの表現や解釈の多様性に、今日の若者の感性や関心の傾向を読み取ることは楽しいものです。どうかご高覧いただき、忌憚のないご批評ご感想をお伝え下さいますようお願い申し上げます。

- ◆入場無料
- ◆連絡先 金沢市末町一〇

金沢学院大学美術文化学部担当受付
TEL 〇七六―二二九―八七七五

2月23日(土)～27日(水) 会期中無休

金沢学院大学美術文化学部 第10回卒業研究制作展

第7～9展示室

平成25年度 友の会会員募集！

3月1日(金)から受付開始!! 郵送でのお申し込みは郵便振替で。
現会員で継続を希望される方も、改めてお申し込み下さい。

1. 会費 二、〇〇〇円
2. 受付期間 三月一日(金)より開始。
3. 入会手続 次のA、Bいずれかの方法。

A 直接来館してお申し込み

- ・ 会員証…その場で発行。
- ・ 場 所…一階情報・図書コーナー及び事務室

- ・ 申込方法…会費(現金)と入会申込書(図①)に所定事項を記入して提出。

- ・ 受付時間…午前九時三十分～午後六時(休館日を除く)

※三月の休館日は、二十四日(日)～二十七日(水)です。

B 郵便局からのお申込み

- ・ 会員証…三月末から美術館日よりと共に郵送。

- ・ 申込方法…同封の払込取扱表(図②)に所定事項を記入し、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)窓口にて支払い。払込手数料(窓口二二〇円・ATM八〇円)は申込者負担。

- ・ 注意事項…郵便局で払込んだ方は、同封の申込書(図①)を郵送する必要はありません。

払込取扱票の受領証は、会員証が送付されるまで大切に保管してください。

◇郵便局(ゆうちょ銀行) 備え付けの振替用紙をご使用の場合、口座番号・加入者・通信欄に右下の事項を記入して支



払い。

4. その他

- ・ 郵便振替口座…00700017146490
- ・ 加入者名…石川県立美術館友の会
- ・ 通信欄記入事項…年齢、性別、会員の区別(継続・新規・元)、職業、継続会員の方は現在の会員番号
- ◇ 会員証の有効期限…平成二十五年四月一日～平成二十六年三月末日
- ◇ 会員証の対象…記名者本人のみ(ご家族の方との連名受付はありません)。
- ◇ 一度納入された会費の返金はできません。
- ◇ 会員証紛失による再発行はできません。

会員の特典

- コレクション展に無料で入場可(要会員証・会員本人のみ)
- 企画展入場券二枚進呈(春季展一枚、秋季展・冬季展のうちどちらか一枚)
- 企画展の開会式ご招待
- 入館料の割引(要会員証)
 - ① 同伴者二名まで…コレクション展、企画展観覧料が割引
 - ② 会員本人のみ…石川県七尾美術館、石川県輪島漆芸美術館、石川県九谷焼美術館、石川県能登島ガラス美術館、金沢21世紀美術館の各館主催展覧会を割引。
- (石川県立歴史博物館はリニューアル工事のため、平成二十五年から休館予定です)
- 館主催諸行事への参加
- 館内カフェ「ルミューゼドアッシュKANAZAWA」にてドリンクの割引(要会員証・土日、祝日を除く)
- 最新情報をお伝えする『石川県立美術館だより(本誌)』を毎月郵送

今年度は輪島市で開催

平成24年度 石川県移動美術展

平成25年2月23日(土)～3月4日(月) 会期中無休

平成二十四年度の石川県移動美術展は下記のとおり、輪島市の石川県輪島漆芸美術館にて開催されることになりました。移動美術展は昭和六十二年に始まり、今回で二十六回目を迎えますが、残念なことに今回を以て終了となります。これまで県内各地の市町村において、地元の皆様の御協力の下に開催を続け、多くの県民の皆様にご鑑賞いただきましたことを御礼申し上げます。

さて今回の展示会場である石川県輪島漆芸美術館は、世界で唯一の漆芸専門美術館として平成三年の開館以来、輪島塗をはじめ世界各地の漆文化の発信を続けています。美術館の性格と展示スペースの関係から、本展は日本画や油絵などの大きな絵画などを中心とする展示に替わり、漆芸・陶磁器など加賀・能登の特徴的な美術工芸品を中心に絵画・彫刻などを含め合計五十八点の作品を展示致します。

多くの県民の皆様がご鑑賞いただきますよう、ご案内申し上げます。

会場／石川県輪島漆芸美術館

輪島市水守町四十番地

TEL 〇七六八―二二―九七八八

期間／平成二十五年二月二十三日(土)～三月四日(月)

時間／午前九時～午後五時

(入館は午後四時三十分まで)

観覧料／無料



「時絵山水図硯箱」 沢田宗沢 作

キッズ☆プログラム参加者募集

「お姫様のくらし」

三月三日(日) 十三時三十分から、小学生親子対象鑑賞プログラムの今年度最後の講座が行われます。今回鑑賞する展示室は、前田育徳会尊經閣文庫分館で展示される「前田家の婚礼調度」。前田家にお興入れした姫たちの婚礼調度の展示からその暮らしをご紹介します。姫たちが楽しんだ遊びなども体験して頂く予定です。参加ご希望の方は、当日、美術館講義室にお集まりください。ひな祭りのひとときを、皆さんで楽しみましょう。

二月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分		美術館・講義室 聴講無料	
2日(土)	世界遺産を訪ねて 4 京都の旅1	谷口	出学芸第一課長		
9日(土)	近現代の仏教彫刻(その2)	北澤	寛学芸専門員		
16日(土)	美術にみる色―青(その2)―	西田孝司	担当課長		
23日(土)	世界遺産を訪ねて 5 京都の旅2	谷口	出学芸第一課長		
■ビデオ鑑賞会		午後1時30分		美術館・ホール 入場無料	
3日(日)	日本の原風景を求めて 日本原風景を描く	日本藝術院会員	村田省蔵	23分	
	日本の原風景を求めて 日本原風景を描く	日本藝術院会員	牛島憲之	13分	
10日(日)	日本の原風景を求めて 日本原風景を描く	日本藝術院会員	村田省蔵	23分	
	日本の巨匠 山を描く	西山英雄		13分	



作品タイトルの如く、裸像の男性が空中に浮遊または、上昇するイメージの作品です。像容は両脚を閉じ左腕を上げ指は天を指し、右腕は体の後ろに回しピッタリと沿っていて変化を付けています。首は上げた腕に寄せ傾かせて腕と一体感を出しています。

像全体からは宗教的な雰囲気をも醸し出しているものといえます。

昭和二十八年(一九五三)の第九回日展に出品したこの作品は、翌年制作の「波」(館蔵品)など作家の後々晩年の作品傾向にみるように、作品フォルムを単純化させて空間を強く意識した作品パターンへの契機ともなっているものです。強調と省略、またデフォルメを施した人体各部を作者のイメージの元に空間に再構成した作品になっていくものです。モデルの長時間・同一のポーズによる制作が難しい作品であり卓抜した写真による長年の人体彫刻の研究と制作蓄積があればこそその作品です。

作者の吉田三郎(明治二十二年/一八八九～昭和三十七年/一九六二)は、金沢市出身、官展を中心に活躍しました。当作品は晩年に至っても変化・発展を試みた吉田三郎を代表する優品の一つとなっています。

(この作品は、二月十五日からの「コレクション展示」第四展示室で展示いたします。)

次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第3～6展示室 企画展示室
春の優品選 —絵画を中心に—	長谷川等伯と 久隅守景	第69回 現代美術展
会期：3月28日(木)～4月16日(火)		会期：3月30日(土)～ 4月16日(火)

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 350円 (280円)

大学生 280円 (220円)

高校生以下 無料

※()は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(2月は4日)

2月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

2月の休館日は
12日(火)～14日(木)



明治10年8月、
加賀藩 前田家の出資により創業。

北陸銀行

金沢支店 / 〒920-8686
金沢市南町5-28 TEL.076-263-5131

広告

石川県立美術館だより
第352号(毎月発行)
2013年2月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>